

# 令和5年度第2回 恵那市廃棄物減量等推進審議会 会議録

日時：令和5年12月18日（月）

午後2時00分～午後3時30分

場所：恵那市役所4階第2委員会室

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 水道環境部長挨拶
4. 議題  
(1) 廃棄物減量化に向けた具体的な取組
5. その他
6. 閉会
7. 会議の公開・非公開・・・公開
8. 出席者の数・・・12人中8人（以下のとおり）

No.	氏名	所属団体等	備考	第2回出席欠
1	柴原 尚希	中部大学	会長	出席
2	渡辺 武彦	地域自治区会長会議	副会長	出席
3	柘植 昭男	地域自治区会長会議		出席
4	加藤 信之	恵那市社会福祉協議会		出席
5	白澤 洋介	生活協同組合 コープぎふ		欠席
6	梅村 克利	(株) バローホールディングス		欠席
7	吉本 巖	王子マテリア (株)		欠席
8	高井 盛人	東栄製紙工業 (株)		欠席
9	近江 則明	ケイナッククリーン (株)		出席
10	別府 裕二	(株) 恵那清掃		出席
11	野原 勝樹	恵那県事務所環境課		出席
12	吉田 勝利	中部地方環境事務所		出席 (WEB)

(順不同)

9. 傍聴人の数・・・1人

## 1. 開会

■事務局（進行） 定刻より早いが開会します。

今回、委員 12 名のうち 8 名が出席しており、半数以上ということで会議が成立していることを報告いたします。なお吉田委員はウェブで参加、渡辺副会長と柘植委員は別会議出席のため、途中退席となります。

会議は「恵那市附属機関等の会議の公開に関する要綱」に基づき会議録を公表いたしますのでお願いいたします。

## 2. 会長挨拶

[会長 挨拶]

## 3. 水道環境部長挨拶

[水道環境部長 挨拶]

## 4. 議題

■事務局（進行） 「恵那市廃棄物の処理及び清掃に関する条例施行規則」第 22 条第 4 項の規定により、会長が議長になると定めている。議事進行は柴原会長にお願いします。

### （1）廃棄物減量化に向けた具体的な取組

[事務局から資料に基づき説明]

■会長（議長） 質問等がある方いらっしゃいますか。

■委員 先日自治会長会議で質問が出たのですが、（ペットボトルの廃棄について）ペットボトルの（ふたを取った後にボトルに残ってしまう部分）キャップリングはそのまま捨ててもいいか。

生ごみ処理は減量にすごく大きな効果がある。我が家も電気式もコンポストも使ったが継続が難しく断念した。何か良い方法があるか。

リユース・リサイクル業者については、住民側からこれを利用してほしいというピーアールによるものか、市から勧めていくものなのか。

■事務局 ペットボトルのリングはカッターなどを使わないと取れない。怪我する恐れがある。取らなくてもリサイクルできるので、むしろ、取らないでほしい。

家庭での生ごみ処理の継続について。田畑のある方は設置型のコンポストが使えるが、ない方にはバック型コンポストを使うことを勧めている。これを実践している人の話では、臭いはひどくならず、家の中に置いても気にならない。移動もできて手軽である。

（リユース・リサイクル）おいくら、ジモティー、リネットジャパン、メルカリについ

て、こういう方法があるということを知りたくて市からアナウンスしていきたい。（市の施設に）廃棄されて入ってきたものは、ピックアップして高品位家電、低品位家電で出荷する。その他のリユース引取りを使って廃棄物削減を進めていきたい。

■委員 地元に戻ってバッグ型方式コンポストを推薦してみる。

■委員 生ごみの件。国と県が進める緑の食料システム。有機農業にこれから取り組むということで、中野方でも勉強会をしている。ここで示された簡易型の大型の装置を地区ごとに入れれば、町民が有効に使うと思うが、かなり高そうだ。導入の補助金はどれぐらいか。1台のコストは？

食用油の廃油回収。徐々に回収量が落ち、拠点回収量の精査をするということについて。中野方では不燃物回収時に回収するが、あれでは周知が足りない。だから固めて捨てると思う。きちんとした所を作っておけばもっと集まると思う。精査とは何をするのか。

ペットボトルのリサイクルは中野方では試行的にやっているが、屋根がないのが問題。ラベルをはがして水洗いして捨てているが、袋が小さくてすぐ溜まる。事務所の所長が苦労して対応している。トン袋ぐらいにして屋根のあるリサイクルステーションの続きに作ればもっと集まる。回収の頻度を多くすれば根付くと思う。

リサイクルの事業者を利用することについて、町の若い人は、子どもの服などは使えるものがあるから町の中でリサイクルの仕組みを作れないかという意見がある。今年はある1軒の空家の後片付けをしたら使えるものが結構出てきた。それを中野方町の文化祭りで売ったら5万円ぐらいになった。メルカリなどに出すより町の人にただで使ってもらいたいという意見がある。そういうことを進めた方がいい。そこで売れなければメルカリなどで売ればいい。

■事務局 生ごみ処理機は、（処理機によるので例として紹介）100kg/日 を処理するものは300万円前後ぐらいの導入費。ランニングコストで電気代が月4万円ぐらいとカタログにある。補助金については、まだはっきりとは言えない。

■委員 地元の農業団体に使うには、イニシャルコストをこれぐらい市が出すから検討しないかということから始まる。そこを最初に明確にしてほしい。

■事務局 よく農家の方の意見で、堆肥に何が入っているか分からないから使いづらいという意見がある。中野方のイメージでは、家庭から出るものなら大概堆肥として使えるような感じですか。

■委員 そういうところは町民の意識改革をするしかない。

■事務局 廃食用油については常設で設置したい。一つの想定としては、スーパーの店舗。バローや生協で常設にする。それ以外の地域は振興事務所を常設の場として活用したいと考えている。

ペットボトル回収拠点の屋根について。現在、試行的にやっている4カ所で聞き取りを

しており、どこでもそういう意見が出ている。もう少し時間をいただきたい。

■委員 リサイクルステーションと同じ並びでやれると格好がいい。

■事務局 (ペットボトル回収頻度について) 施設管理公社が回収しており、月 1 回の資源ごみコンテナを置いた帰りにトラックが空になるので積んで帰ってくる。そのルートを公社で検討している。もう少し経てば分かるのでまた回答します。

■委員 地区でも管理は頼まれればやる。雑紙などと同じように、少し金銭の見返りがあると頑張ると思う。管理費 1000 円では大変だ。

■事務局 そういう意見はどこでも出ている。検討させていただきます。

(リサイクルについて)、地域で回るものは地域で活用していただくのが一番いい方法であると考えています。

■委員 市の基本方針として上げていき、そこを後押ししてくれるといい。

[渡辺副会長、柘植委員退席]

■委員 17 ページ。BDF 燃料供給量の表について、明知鉄道の車両に 11,910 リットルとあるが、実際には 30,438 リットルが 1 年間の実証試験で使ってもらった B30 燃料の量になります。その 30%なので BDF の供給量は 9,131 リットル。参考までに、これで 23.9 トンの CO2 を削減した。その下の段の 5%配合は、BDF の供給量は 5,122 リットル。訂正をお願いできないか。

■事務局 了解しました。

■委員 元々 1 年間の実証試験の計画で、一年間終了し、継続使用しないということで終わっている。

■委員 ペットボトル廃棄に関して。現状は市民から出される生活系と事業系は別ルートになっていると思う。出し方が変わるので、統一した方がいいのかも検討してほしい。

というのも、バローで店頭回収しているものが、弊社では事業系で扱っているが、市民が出すとき、新しく変わる出し方で出してくれると思うので、それを市のリサイクルセンターに出してもらう方が有効に活用できるのかもしれない。恵南地域ではケイナクリーンのペットボトルの取り扱いをどうしているのかを含め、改めてどうするべきか。ペットボトル自体が一般廃棄物になると思うので、生活系と事業系を一体のくくりにしてどうしていったらいいのかを考えてほしい。

リユース。弊社も家屋の解体を始めるが、リユース事業も始めたい。現状、一般業務の収集運搬の中で、家財道具、粗大ごみを収集するのみだが、その中でも使えるもの、売れるものは買い取って販売できるように弊社も取り組みたい。力になりたい。

■事務局 恵那清掃さんがバローで回収したペットボトルはどのように出荷しているのか。

■委員 東海エコシステムに売却している。

■事務局 ケイナククリーンさんが回収している分は自社でフレーク化して出荷されているのか。

■委員 そうです。中間処理でフレークにして出荷する。

■事務局 以前ケイナククリーンさんがエコプラザの回収をしてくれたとき、フレーク化するとき外のフィルムが影響あるということで、エコプラザの排出方法としては、ラベルを剥がして出してというアナウンスをしていた。なので、今後事業系もラベルを剥がすということで統一していけるといいのかなと考えます。

出荷先について、エコセンターと東海エコシステムのどちらに持ち込むかという質問だったが、市の中で調整して後日回答する。またリユース事業を始められるということで、よろしくをお願いします。

■委員 食品残渣、生ごみの資源化。非常にいい取組。家庭ごみの3、4割が生ごみだということなので、これが削減できれば非常に大きな効果が出る。県内でもいくつか補助金の申請状況を見るとやっているところがあるということだが、有名な徳島の上勝町でも生ごみのコンポスト化をやっており、その話を聞いたことがある。やはり個人負担が発生するものであって、補助金が2分の1か3分の1出るが、個人で買うとある程度は個人負担がある。これをどう20%から30%に増やすのかなと疑問に思いました。上勝町は100%やってくれという体で行っているということだった。30%で止めるということはそういうわけでもないかなと思う。個人負担は手間がかかるので、行政的にはやる意味がある動きだと思う。その辺りはどう広めるか。

■事務局 生ごみのコンポストをどのような広め方をするのか。手間がかかり面倒くさいとできないが、様々なアイテムを出すことで、それぞれの家庭に合った取り組みを進めていってもらえないかと考えている。例えば、田畑がある人は設置型に取り組んでもらう。マンションだったらバック型をやってもらう。そのような形で家庭に合った堆肥化を提案していきたい。

■委員 上勝町の取組を聞き、住民に対して何を示してやってもらうかっていうところの参考として。一つは、今回2300万円の効果が生まれるということだが、住民が取り組むことで削減できるコストとその生かし方・効果を伝えるというのも一つある。堆肥化をして、それをやらない人は一カ所に集めるということだが、住民が協力してやりがいを感じたり、可能ならインセンティブ、ポイントなどの推進方法がないと広められない。広報ややりがい進捗部分もあり、家庭内処理を20%から30%に上げるだったら「お願いします」ベースでもいけるが、今後、例えば50、60%ぐらいになると、もっと強力な何かが必要になると思う。

あとは、プラスチックの取り組み。廃プラスチックの資源化も検討いただいているということで、廃プラのケミカルリサイクルに関する検討会に参加ということですが、プラス

チックは、環境省で新しく、プラスチックに係る資源循環促進等に関する法律ができています。11月に岐阜県輪之内町が県内で初めて認定を受けた。今検討会に参加して情報収集している段階だと思う。具体的にどこかと組んでプラスチックのリサイクルの認定を受けることについても事務所で相談にのる。

■事務局 輪之内町が認定されたことは知らなかった。参考になる。今後相談していきたいのでよろしくお願いします。

■委員 輪之内町は岐阜リサイクルセンターというところで大量リサイクルをやるということで今回認定を受けている。ネットに載っていると思う。

■事務局 岐阜リサイクルセンターは聞いたことがある。岐阜県清掃事業協同組合が立ち上げて譲渡された施設だと思う。参考にします。

■委員 3点ある。生ごみ処理。各家庭に処理機を置くための助成などされている。9ページのような大きなものは、個人ではなく集めてやるということになると、一般廃棄物の処理ということになり、市がやれば市の処理になるから問題ないと思うが、委託業者だと一般廃棄物の処理ということになるので、処理業など、その辺はしっかり検討してから導入する方が良い。基本的には各家庭でやってもらうのが一番問題ない。

廃食用油。明知鉄道の実証実験の後、何かあるのか。

リユースで、高品位家電で情報系機材もやっているが、個人情報に関係の対策はどうか。出す人は意識せずに出す。

■事務局 生ごみは出さない仕組みづくりを推進するのが大事だという意見、ありがとうございました。

廃食用油について、今後 B30 は使う予定はないと明知鉄道からは聞いている。ケイナンクリーン近江委員より補足があれば・・・。

■委員 (明知鉄道は) 今後使わないというより、使うのが難しいということ(だと聞いている)。というのも軽油に比べて割高になるためで、バイオディーゼルを 30%混合するのだが、集めて作るコストが1リットル当たり 200 円以上かかる。3 万リットルぐらいを1 年間に使うが、これを継続するとかなり負担が出る。補填する補助があれば継続して使いたいと専務が言っていた。助成などがあれば広がるのでは。

実証試験は、B5 燃料というのが国の基準で、5%までしか混ぜてはいけないことになっている。これを諸外国並みに引き上げるために、国内で空港やトラックなどで実証試験をやっている。データを経産省に上げるのが目的。(実証結果としては) 問題なく明知鉄道も終わった。

■事務局 高品位家電の個人情報について、排出者でデータを消すのが大前提。ただ、小型家電リサイクルのリネットジャパンは企業の方で消去するサービスも行っている。もし個人情報が心配ならリネットジャパンを紹介するのが一つの手法だと考える。

■委員 10月からフードドライブが始まった。当初はすごい反響だった。社協にもかなり電話が入った。すばらしいことなので協力したいという電話が多数あった。市外からも相当連絡があった。内容はお菓子類が多い。高齢者が家にある食べないお菓子を持ってきてくれる。米も多かった。

子育て支援の団体が最近増えている。地域の子どもたちを支えるボランティア団体。そういうところにお菓子を配ったり、カレーを食べるときにお米を配ったりした。今度も子育て支援団体は増えていくと想定する。大井でもある食堂に来て帰りがたらない子が結構いる。何も話さないがみんなの話を聞いている。そういうところに、本来廃棄される予定だったものが活用されている。今後も協力していきたい。全てデータ化して賞味期限も把握して管理している。

■事務局 市としても、食品ロス削減、廃棄物削減というところで、また広報していきたい。

■委員 廃油の回収で、今後どうしたら多く集まるかという話が先ほどあった。私たちは万博に向けて博覧会協会と話をしている。今グリーンチャレンジという取組を万博に向けて進める計画がある。目玉として廃食油を全国の地域で取り組んでもらうが、廃油回収拠点にQRコードを設置し、アプリに登録し、QRコードを読み込むとポイントが付く、そのポイントは、抽選に参加する権利が得られるということを考えているようだ。そういうものをスーパーや、私どもの提案では、市のごみステーションなどに回収拠点を設ければ、回収拠点が一度にできるので、そういう活用ができないかと聞いたら、ぜひやってほしいということだった。今後進んでいく。万博が終わってからも継続する取組としてやる。そういうのを活用すると効果が得られると思う。

■事務局 貴重な情報提供ありがとうございました。インセンティブ、何か得になることは促進につながると思う。また情報があったら教えていただきたい。

■議長（会長） 今日インセンティブの話などいろいろ出て前回にはない議論だった。半年ぐらいでいろいろ実績が出てきて数字が入ってきて議論の基にできた。この実績の見える化を継続してほしい。

フードバンクは、最初の数字が大きく、2カ月目から（減って？）、どれが定常状態なのかということも気になるところだ。今後継続して情報を取ってほしい。提供する側と受け取る側が良いバランスでないと結局余ってしまう。需給が一致するように循環する仕組みになるといい。

フードバンクとリユースの話は、食べ物と不用品という違いはあれど、使わない人や食べない人と欲しい人とのマッチングの話なので、その仕組みを、プラットフォームを使ってでもいいが、地域内でうまく回ることも大事だと思うので、本当はそういう仕組みがうまく活用できると、どちらの取組にも応用できる。そこに一つ、例えばインセンティブな

どが入ってくると、うまく市内でも回っていくと思う。

一方で、生ごみのような話では、ごみを減らすというのが重要なので、こちらの取組を進めるには、インセンティブもいいが、よくあるのは、そういうことをすることによって逆に総量が増えること。いわゆるリバウンドの効果が起きる可能性があるので、そこは注意深く数字を見ないといけない。前年度より処理量が増えたのはいいがごみの総量が増えたら本末転倒になる。

外にご質問等ございませんか。無いようですので、議事を終了します。以後の進行を事務局へお返しします。

## 5. その他

## 6. 閉会

■事務局（進行） その他について、事務局では特に用意していないのですが、委員の皆さんよりご連絡などございませんか。無いようですので、これで終了いたします。

本日はありがとうございました。

[ 閉 会 ]